

普通の家計の貯蓄額はいくらか？

1805万円それとも997万円？



専務理事 樋 浩一

haji@nli-research.co.jp



はじ・こういち

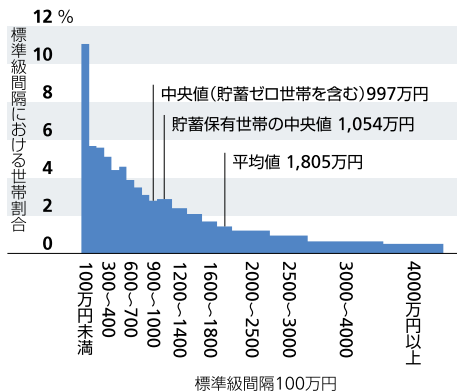
東京大学理学部卒、同大学大学院理学系研究科修士課程修了。
81年経済企画庁(現内閣府)入庁。
92年ニッセイ基礎研究所、12年より現職。
主な著書に「日本経済の呪縛—日本を惑わす金融資産という幻想」。

1—— 平均値は平均的ではない

2015年に日本の家計が保有していた金融資産は1世帯あたり平均1805万円で、3年連続の増加となった(総務省統計局「家計調査(貯蓄・負債編)」)。もしも保有している金融資産額が1400万円だったとしたら、自分の貯蓄額は日本全体の中でかなり少ない方だと思うかも知れない。しかしこれは大間違いで、1400万円の金融資産を保有している人は、日本国内で貯蓄額の多い方から上位4割程度のところにいる。この人は平均額の4分の3程度の金融資産しか保有していないが、全体の中ではむしろかなりお金持ちの方で、6割の世帯が自分よりも保有している貯蓄額が少ないのだ。

【図表1】貯蓄現在高階級別 世帯分布 -2015年- (二人以上の世帯)

出所:家計調査報告(貯蓄・負債編)
一平成27年(2015年)平均結果速報一(二人以上の世帯)



平均という言葉には「よく見かける」、「典型的な」という意味合いが込められており、「平均的なサラリーマン」とか「平均的な家計」という言い方をします。身長がクラスの平均値の近くの人、身長が順番に並べば大体真ん中あたりに位置する。テストの点数なども平均点であれば、成績の順位はク

ラスの真ん中あたりで、ごく普通の成績という評価になる。しかし資産や所得については、金額が平均値だということは平均的だということではない。

2—— 普通の家計の貯蓄は997万円

手元にある統計の入門書にはこのような例え話を書いてある。「レストランで9人の客が食事をしていると、たまたま、世界一のお金持ちマイクロ・ソフト社の共同創始者であるビル・ゲイツ氏が入ってきた。ビル・ゲイツ氏の資産額は、フォーブス誌によれば750億ドルだ。レストランの客の平均資産額は約75億ドルになる、しかしこれはこのレストランの『平均的な』お客の資産額とは言えない。」

ビル・ゲイツ氏がいるレストランにいた客の金融資産保有金額の平均値を計算しても、普段レストランに来る客がどれくらいの資産を持っているのかという問いの答えにはならない。教科書には、こうしたときには平均値ではなく中央値(金額の多い方から並べてちょうど真ん中の人の保有額)を使うべきだと書いてある。レストランに最初にいた客の資産額はそれぞれ異なっているだろうが、平均値の75億ドルと比べれば、4番目に多い人でも、5番目の人でも、資産保有額はほぼ同じと言っても良いくらいの差だろう。

家計調査で見た家計の貯蓄額は、最初に述べたように平均で1805万円だ。しかし、保有している貯蓄額の多い順に世帯を並べたときに真ん中になる世帯の貯蓄額(中央値)は997万円となっており、平均値の1805万円を大きく下回っている。これ

は高額な貯蓄を持っている世帯が、平均を押し上げてしまうためだ。

3—— もっと中央値に注目を

政府が何かの政策を検討する際に、1世帯当たりの金融資産が1800万円程度だと仮定するのか、1000万円に満たないと仮定するかでは、結論が大きく異なる。平均貯蓄金額という数字の意味を皆が正しく理解していないと、不適切な政策に繋がってしまう。

米国商務省が発表している家計の所得や貧困に関する資料では、中央値が最も重要な統計数値として扱われているのに比べると、日本では中央値はほとんど注目されることがない。2015年平均の家計調査の結果について、マスコミ報道で中央値に言及されたものは見かけない。そもそも日本の統計で中央値が発表されているものはほとんど無いのが実情だ。

平均所得や平均貯蓄額といった平均値が、標準的な世帯の状況を表しているわけではないという点について、日本では十分認識されているようには見えない。政府がもっと多くの指標について中央値を公表するよう努力するとともに、統計について正しく理解できるように学校での教育に力を入れることが、正しい認識を広める第一歩となると考える。